

東大宇宙物理学者 村山斉氏の人生の方程式 ～情熱が持てるものを見つけた私の新たな歩み～

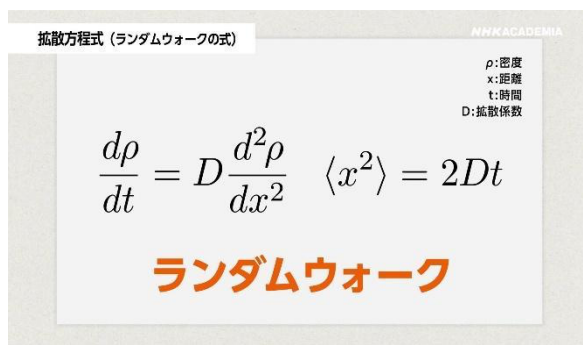
M.A.

「私の人生を振り返ると数式で表すことができます」

宇宙物理学者で、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構の村山斉初代機構長が、テレビ番組で黒板に数式を書き始めた。

村山氏はドイツ・日本・アメリカで生活をし、研究者として色々な経験・苦勞される中で宇宙に関するいくつかの謎を解明している。人生は数式で表すほど簡単な話ではないが、村山氏がどんな数式を書くのか、ワクワクしている自分がいた。

黒板にはランダムウォークの数式（拡散方程式）が書かれ、ランダムウォークの様子が映像で流れた。



拡散方程式 (ランダムウォークの式)

$$\frac{d\rho}{dt} = D \frac{d^2\rho}{dx^2} \quad \langle x^2 \rangle = 2Dt$$

ランダムウォーク

ρ : 密度
 x : 距離
 t : 時間
 D : 拡散係数

図1：ランダムウォークの数式
(出典：NHK ACADÉMIA)

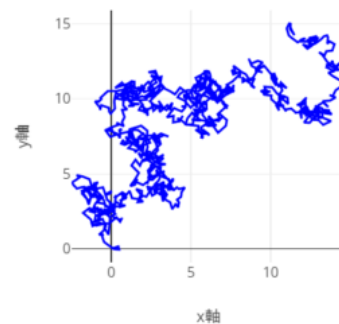


図2：ランダムウォークの様子
(出典：アシアル情報教育研究所)

そして、村山氏はこう伝えた。「私の人生も行ったり来たり。途中、その場に留まっているように見えるんですけども、ふっと突破口が開いて進んでみたり、また違う方向に行ってみたり。直線の方程式のように時間を2倍にすれば距離が2倍になることはないが、ルート2倍は進んでいく。寄り道の多い人生だったが、自分が宇宙・素粒子の研究をしたいという情熱を持てたおかげで、前に進むことができた」

この言葉が、異動して悩んでいた自分の心に響いた。

<不安の中でもがいていた一年、そして見つけた新たな目標>

私は2009年、ソフトドリンクやお酒を製造・販売する会社に新卒で入社し、生産研究部門の方針・戦略を企画・策定する仕事をしてきた。ところが、2020年4月、コロナ禍に健康食品を製造する工場の生産管理部門へ異動となった。

新部署では、これまでと仕事内容や必要とされる専門性が大きく変わることから、新しい部署で何を期待されているのか、どう成長していけばいいのかと不安になっていた。また、コロナの影響で出社が出来ず、部署の人たちとオンラインでしか顔を合わすことができない。自宅で一人で仕事をしていると、会社・部署に属する意味は何かを考えることもあった。

その不安から人生設計のセミナーの受講やマインドフルネスのトレーニングをするも、どうもしっくりこない。また、自分の存在価値を高めようと経営大学院に向けた挑戦をしてみても、自分のために本当になっているとは思えず、時間だけが過ぎていくような虚しい気持ちになった。

その時に一度立ち止まって、自分は何をしたいのかを就職活動中のノートを見返したり、大切にしている価値観を書き出したりしながら改めて考えてみた。

「お客様が自社の製品を安心して飲んでもらうために、品質の高さを伝えたい」

自分が情熱を持てる新たな目標を1年後に見つけることができた。

<心を支えてくれた村山氏の言葉 ～途中壁にぶつかっても、前に進み続ける～>

その後、製品の品質の高さを知ってもらう活動を考え、思い切って上司に提案すると Go サインをもらうことができた。ただし、ここからが苦難の連続。提案した内容を形にするために様々な人と話をしたが話は発散するばかりで内容がまとまらない。また、他の業務もあり、なかなか思うように進まず、体力・精神的にもハードな時期であった。

そんな時に「その場に留まっているように見えるけど、ふっと突破口が開いたり」「途中、壁にぶつかることがあっても前に進むことが大事」という村山氏の言葉を電車に乗っているふとした瞬間に思い出した。

「言い出したからには最後までやり切りたい。そのためにはとにかく前に進むしかない」と腹をくくって仕事を進めた結果（少し強引だったかもしれないが）、約1年半後に成果を出すことができた。

自分の社会人人生はまだ10年強。周りと比べると進んだ距離は短いかもしれないが、情熱を注げる目標に向けて途中壁にぶつかりながらもあきらめずに前に進み続けたい。